



2015 年度  
NPO 法人 MIS  
年次報告書

## 目次

1 代表挨拶	1
2 2015年度事業概況	2
3 活動報告	5
4 2016年度全体活動方針	29
5 協賛企業・財団紹介	30
6 ご協力のお願い	31
7 連絡先	32
8 基本資料	33

## 1 代表挨拶

MIS2015年度報告書にお目通し頂き、誠にありがとうございます。MISは今年、創設4年目を迎えました。カンボジアから始まったネットワークはアジア8カ国へと拡大し、また20名だったメンバーも80名にまで増えました。ここまで順調に活動を広げてこられたのも、お忙しい中、私たちの活動に目を向け、お力添えを下さる皆さまあってこそこの結果です。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

毎年新しい国、新しい地域を訪れる度に、現地の大学やサークル、日本語学校など多様な学生が、私達を温かく迎えてくれます。彼らに感謝をするとともに、アジア国間の学生交流がまだまだ求められていること、そして今後も広がっていく可能性を強く感じます。学生同士だからこそ、立場や国境を越えた腹の底からの分かり合い。言語や文化の違いを越えるからこそ、より実りある切磋琢磨。この交流の糸をより多く、強くしていくことが、MISの使命だと再確認します。

MISはまだまだ未熟な点が多く、日々試行錯誤の途上におります。しかし、国際的視野を持つリーダーが率い、互いに協調しあえるようなアジアや世界。そんな未来を思い描いて、メンバーは誇りをもって活動をしております。

2016年度も、MISで生まれるプロジェクトや多国間交流が、一步ずつでもプラスの変化を起こしていくことを願い、アジアの力強い仲間と共に、団体一同精進してまいります。

皆様には引き続き、温かなご理解・ご協力を頂ければ幸いです。今後とも、何卒よろしくお願い致します。

2016年3月31日  
特定非営利活動法人 MIS 理事長  
内藤美織



1

## 2 2015 年度事業概況

3

MIS 団体概要	3
2015 年度活動概況	3

4

5

6

7

8

**団体名**

特定非営利活動法人 MIS (Multilateral Interaction with Students)

**理念**

Seed the future, Lead the world

~Pave the way for a brilliant future~

**目的**

社会に対し主体的・積極的に貢献することの出来る次世代リーダーの輩出

(次世代リーダー：自ら主体的に問題発見・解決ができる人)

**目的達成のための手段**

MIS では、上記目的達成のため、議論・実行のサイクルを重視しています。他国学生と社会問題についての議論をする中で問題意識を共有し、その解決に向けた様々なプロジェクトを作成、実行する。この議論と実行の過程を繰り返すことで、参加した学生が次世代リーダーとして成長していくことを目指しています。

東南アジア 8 か国のチームと、2 つのプロジェクトが活動中です。

(以下は 2016 年 3 月現在の 2015 年度における組織構成です。2016 年 4 月からの新体制に移行する予定です。)

**執行部門**

総務・経理・人事・財務の 4 つの部門に分かれ、MIS の運営を担っています。ネットワーク部門が出来る限りスムーズに動けるようなサポートをすることが目標です。また総務部の下部組織として断捨離プロジェクト、Experience Japan Project という二つのプロジェクトチームが存在しています。

**①総務部**

年次報告書や法人資料の作成、総会や OB 会の開催を担います。下部組織として以下の二つのプロジェクトチームを抱えます。

**(a) 断捨離プロジェクト**

日本では不要だが発展途上国では必要とされているものをカンボジアに届けることで、日本人と現地人双方に利益をもたらすプロジェクトです。今までに 2 度、日本で集めた物品をカンボジアへ輸送しました。

**(b) Experience Japan Project**

渡航費等を援助して東南アジアの学生を日本に招き、実地経験を通じて主体的な問題発見解決能力を養うプロジェクトです。8 月に実行予定です。

**②経理部**

年会費や入会費の徴収やプロジェクト費の監査を通じて、MIS 全体の金銭の流れを監督します。

**③人事部**

入退会の管理を始め、MIS 内での人の流れを担当しています。内部専門性の強化も担います。

**④財務部**

プロジェクト実施の際に必要な資金を、財団や企業協賛を通じて獲得することを担います。

## ネットワーク部門

### ○ JCSI (Japan Cambodia Students Interaction) 【カンボジア】

タヤマ日本語学校学生とともに、様々なプロジェクトを進めています。過去に3度の教育プロジェクトを実行したほか、新たな分野でのプロジェクトも作成中です。

### ○ JVSI 【ベトナム】

フエ農林大学の学生と共同で、水際のゴミ問題に関するプロジェクトを14年夏と15年春に実行しました。

### ○ JPSI 【フィリピン】

今夏に現地へ視察渡航を行い、2つの提携先とプロジェクトを作成中です。

### ○ JSSI 【シンガポール】

カンボジアでの教育プロジェクトにシンガポール学生を招待する Multilateral Project を実行し、3か国学生によるプロジェクトを実現しました。

### ○ JBSI 【ミャンマー】

現地日本語学校の学生と、教育などにまつわるプロジェクトを作成中です。

### ○ JISI 【インドネシア】

2014年に新しく発足しました。災害などをテーマとしたプロジェクトの実行を目指しています。

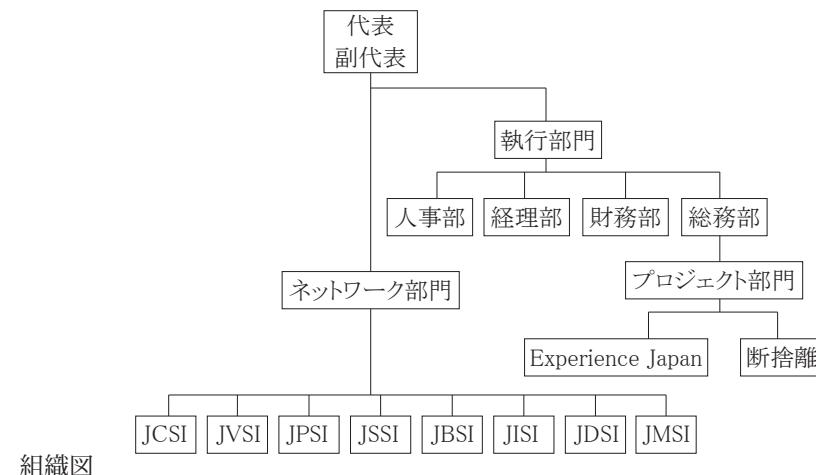
### ○ JDSI 【バングラデシュ】

2015年に新しく発足。来夏箱根の小学校にバングラデシュ人を招致してプロジェクトを実施する予定です。

## 全体活動計画

過去のプロジェクトの反省を生かし、交流・支援活動を継続しました。新規ネットワークの構築に努める他、15年8月・3月頃には各チーム現地へ赴き、プロジェクト実行や視察渡航を行いました。

また、内部の専門性として「プロジェクトマネジメント・コーチング・英語力」の3つを掲げ、これらのスキル向上に日々取り組んでいます。



4月	新歓活動
5月	4期入会、新体制開始
5月	
7月	
8月	JVSI・JPSI・JSSI・JISI 夏渡航実施、Experience Japan プロジェクト実施
9月	JCSI・JBSI 夏渡航実施、断捨離プロジェクト実施
10月	
11月	課題解決プロジェクト
12月	
1月	
2月	JPSI・JBSI 春渡航実施
3月	JVSI・JSSI・JISI 春渡航実施

2015年度における主な活動

### 3 活動報告

#### 事業報告

##### (1) ネットワーク部門事業報告

JCSI	6
JVSI	8
JSSI	12
JPSI	14
JBSI	17
JISI	20
JDSI	22
JMSI	22

##### (2) プロジェクト部門事業報告

断捨離プロジェクト	24
Experience Japan	25

#### 運営報告

(1) 執行部門運営報告	26
(2) 定例会運営報告	27

# 事業報告(1) ネットワーク部門事業報告

## JCSI (Cambodia)

### メンバー

3期 堤佳奈、松嶋達也、黒川洸洋、中村美依奈

4期 山本梨那、大久保香奈、木曾千春、藤田啓介、大鹿史顕

### 年間活動スケジュール

4月	
5月	4期加入
5月	夏渡航準備
7月	〃
8月	〃
9月	夏渡航・反省
10月	代交代
11月	次回プロジェクトの構想
12月	各メンバーによる立案
1月	〃
2月	
3月	

### 渡航詳細

9月渡航

#### 〔渡航目的〕

幾度と教育プロジェクトを繰り返してきたカンボジアにおいて、改めて問題発見のフェーズを見直し固め、日本人と提携先のタヤマの学生が共同でプロジェクトを作り直す。

農村全体のことを考えるきっかけにしたい。

#### 〔渡航概要〕

参加者 MIS メンバー: 7人

提携先 タヤマ実践カレッジ

渡航日程

日付	午前	午後
9月2日	成田発	プノンペン着
3日	シーセフ訪問	JICA訪問、タヤマで日本語授業
4日	しろいとり、愛センター訪問	タヤマにてプロジェクトの話し合い

5日		小学校にてプロジェクト
6日	プロジェクト2日目	コンポンチュナンへ移動
7日	タヤマとの反省会	柳井さん訪問
8日	シェリムアップへ移動	かものはし訪問
9日	観光	上智アジア人材育成研究センター見学
10日	観光	NPO訪問、シェリムアップ発
11日		東京着

#### 〔活動報告〕

タヤマとの活動としては、まず農村のフィールドワークを行った。問題発見のフェーズを確認することを目的としたもので、タヤマ生との共通理解のもと実際に家庭訪問を行い農村の人々の生活を生で見たり話を聞いたりすることができた。

また、衛生教育に関するプロジェクトも行った。今回のプロジェクトは初めてタヤマ生主導で行ったものであった。少し押し付けのような形だったことは否めず、また日本人が参加した意義があまり反映されなかったことも否めないが、全体として完成度の高いプロジェクトを提携先主導で行えた。

その他にもカンボジアで活動する各団体に話を聞く機会を設けた。

#### 〔渡航成果〕

タヤマ生独自でプロジェクトが実行できており、他のネットワークチームとは違う段階にカンボジアチームが入っていることが確認できた。過去何度か繰り返してきたプロジェクトが提携先独自で行う状態に実を結んでいると感じた。

一方で日本人の役割というのがいまいなままで終わってしまった。2015年度唯一のカンボジア渡航だったこともあり、もっとはっきりさせておく必要はあった。ただ家庭訪問において新たな問題意識として貧困問題にフォーカスすることができた。実際の聞き取りでは生活や収入といったところの情報を生で得ることができた。

## 来年度のビジョン

タヤマ生が独自で教育プロジェクトを行っている状況において、今後も教育プロジェクトを続けることは、日本人が参加することの意義を考えても、またお互いの成長を考えてもあまり意味は薄いのではという認識である。そのため今後は、家庭訪問においてフォーカスした貧困問題についてより詰めていく方向である。タヤマ生との関係は継続しつつ、貧困問題に関して新たな視点を導入しました新しいプロジェクトを実行できるよう議論を進めていきたい。

また、MISの方針として MP (Multilateral Project) を積極的に進めていくことにも関連し、MP チームと歩調を合わせながらカンボジアでの MP を検討していきたいと思う。



# JVSI (Vietnam)

## メンバー

3期 時丸耕太、神保翔太郎、林千里

4期 伊藤剛士、清水峻太、下田悠太、成田恵瑠果

## 年間活動スケジュール

4月	春渡航反省、報告
5月	新歓
6月	ベトナム勉強会、プロジェクト内容の決定
7月	フィールドワーク詳細決定とプロジェクト準備
8月	夏渡航
9月	渡航反省
10月	リーダー、執行引継ぎ
11月	春渡航内容の議論、合同報告会
12月	新規プロジェクト準備、提携企業探し
1月	環境プロジェクトの方向性の決定
2月	プロジェクト準備
3月	春渡航

## 渡航詳細

8月渡航

### 【渡航目的】

フィールドワークを通した問題発見と現地学生との交流

- ・地域調査：ベトナムの住民の生活の実態・環境意識をより深く理解し、今後の活動を考える上で参考とする。
- ・クラフトビレッジ：環境汚染に加担しているとされる村に訪ね、その実態を調査したのち解決案を考える。
- ・地域清掃：きれいな状態を残し、環境保護意識を住民全体に浸透させる。
- ・観光プロジェクト：明らかな社会問題がない地域であえてフィールドワークを行い、問題発見という目的に重きを置くことを意図とする。
- ・ホーチミンでの活動：MPに向けたホーチミンの大学生との関係をさらに強化する。

## 【渡航概要】

参加者 MIS メンバー :12 人

提携先 フエ農林大学イングリッシュクラブ (EC)

## 渡航日程

日付	午前	午後
8月 14 日		先発隊到着、シッタデル観光
8月 15 日	市内フィールドワーク	市内フィールドワーク
8月 16 日	クラフトビレッジでフィールドワーク	クラフトビレッジで観光
8月 17 日	ミニ環境プロジェクト	観光地でのフィールドワーク
8月 18 日	ミーティング	自由行動
8月 19 日	フエ発	ホーチミン観光
8月 20 日	ホーチミン発	成田着

## 【活動報告】

この渡航では問題発見のプロセスに立ち返り、主に問題発見をすることを軸に MIS と HUAF (フエ農林大学) の生徒と共に3つの観点からフィールドワークを行い、その後議論した。このプロジェクトは一つ一つに異なる意義が存在するが、まず自らが現地に赴き、目で見て・肌で感じるという点が共通の目的だった。また、そのフィールドワークの効果を最大限生かす為に各フィールドワークごとにベトナム人とブレーンストーミングや KJ 法を使用し議論することで、日本人とベトナム人の異なる価値観の融合とそれによる新たな問題点、解決策の創出を図った。フィールドワークを行ったのは、フエ市内、クラフトビレッジ、観光地の3か所である。また、ミニ環境プロジェクトも同時に現地のユースユニオンという団体と協力し、河川周辺でのゴミ拾い活動を行った。

## 【渡航成果】

プロジェクトの実行にどうしても注意が行きがちであった MIS のこれまでの活動の反省を生かし、今回は問題発見というところに重点をおくことにより、MIS が本来重視する問題発見、解決というプロセスを再確認することができた。3か所で行ったフィールドワークによって、現地での人々の生活の様子やその問題点、環境問題、観光地における問題点というものを発見する機会となった。また、いずれの場所でも現地の人々に直接インタビューするなど、より現地に密着した生の声を吸い上げる調査ができたのは有

意義であった。ただ、上がってきた問題があらかじめわかっているようないわゆるありきたりな問題が多かったのも事実であり、次回以降の渡航にあまり直接的につなげることができなかつたのは反省である。ただ、今回の渡航での調査でVメンバー、とりわけ今回が初渡航となる4期がベトナムに対しての具体的なイメージを持つことができたのは事実であり、直接的ではないもののその後のプロジェクト発案につながつたのは収穫だろう。

また同じく今渡航の大きな成果は提携先であるフエ農林大学イングリッシュクラブ(EC)との交友を深めることができた点であろう。各フィールドワークを少数名の班に分けて行ったことにより、4期を含め日本人一人一人がベトナム人と話す機会が自然と多くなったために、互いの距離を縮めることができた。次世代リーダーの育成というMIS理念を達成するためにも、プロジェクト実行の重要なパートナーであり、ともに次世代リーダーとして成長していくべきECメンバーとの関係を深めることは必要不可欠な要素であり、今後のプロジェクトのことを考えても理想の関係に近づけたというのは大きな進展であった。



# JVSI (Vietnam)

3月渡航

[渡航目的]

前回に引き続き環境プロジェクト新規の職業体験プロジェクトを進める。

環境プロジェクトは実施小学校を新しくすることでプロジェクト範囲を拡大し、内容においてはポイ捨てが環境に与える影響を伝え、なぜごみを捨ててはいけないのかという理由を理解してもらうことで環境意識を喚起する。

職業体験プロジェクトは、夏予定している実際の職業体験の導入としてのプロジェクトであり、参加者の確保、適職チェックを通じて将来の職業選択について考えてもらうことが目的である。

[渡航概要]

参加者 MIS メンバー: 6人

提携先 フエ農林大学イギリッシュクラブ (EC)

渡航日程

日付	午前	午後
3月 10 日		成田発、ホーチミン着
3月 11 日	ホーチミン発、フエ着	EC とのミーティング
3月 12 日	小学校での環境教育プロジェクト	高校生との職体導入プロジェクト
3月 13 日	EC メンバーとの行動	ホームステイ
3月 14 日	ダナンの企業 (HIS) 訪問	ダナン市内での提携先探し
3月 15 日	ダナン発、フエ着	ミーティング、フェアウェルパーティ
3月 16 日	フエ発、ハノイ着	ハノイ観光
3月 17 日	ハロン湾での観光	ハロン湾での観光
3月 18 日	ハノイ発	成田着

[活動報告]

環境プロジェクトと職業体験プロジェクトの2つをメインで扱った。環境プロジェクトは現地小学校に赴き、子供たちとリサイクルに関する実験、環境意識喚起のための紙芝居、校内周辺のゴミ拾いを行った。実験は古紙から新しい紙をつくるというもので、ゴミの分別やリサイクルの重要性について学んでもらうことを重視した。紙芝居はポイ捨てが生態系に与える影響、リサイクルの意義をわかりやすく説明し、環境に対しての意識を高めてもらうことが目的で、子供たちも興味を持ってくれていた。一緒にゴミ拾

いも行き、実践する姿勢を学んでもらった。全体的に興味を持ってもらえたので効果は大きかったと思われるが、実験の意味やどう実践につなげるかというところが少々難しく、十分に伝えきれなかったのが反省である。

職体導入プロジェクトは夏の職業体験に向けての導入であり、適職チェックと観光業に関するワークショップを行った。適職チェックは適正職業という概念に触れ、自分の将来を考える機会をあたるために、ワークショップは HISへの職業体験を見据えた導入で、フエでの1日観光プランを考えるというものであり、主体的な議論によって皆の知識を合わせ、一つのものを作り上げるという創造性を養うためのプロジェクトで、これらを通じて我々の活動に興味を持つてもらうことができた。ただ、適職チェックの内容が難しく、高校生の理解が十分ではなかったのが反省点である。

[渡航成果]

従来の環境プロジェクトでは、新たな小学校で実施することができたという点で規模を拡大することができた。また、プロジェクト内容に対して子供たちは興味を示してくれていたので、環境に対する何らかの意識変化を与えられたと思う。今後も何回かこのような環境プロジェクトを行っていけば、環境に対する意識も定着していくのではないかと考える。職業体験の導入プロジェクトに関しては、高校生たちと交流を図ることができたのが大きな成果である。職業体験に来てもらうためにまず我々の活動に興味を持ってもらいたかったので、積極的にかかわってくれた彼ら、そして彼らを集めてくれた EC メンバーに感謝したい。高校生たちは日本に対する興味が深いようで、我々の話を興味深く聞いてくれていた。また、職業体験プロジェクトを行う予定である HIS に訪問し、団体説明と軽い打ち合わせを行うことでプロジェクトに対するイメージをより具体的にすることができた。また、スタッフの方々に紹介してもらったダナンの日系企業を訪問し、プロジェクト協力に前向きな検討をしていただくことができたため、今後のプロジェクトを拡大していく予定である。

## 来年度のビジョン

春渡航同様にこれからは環境と職業体験の2つをメインで扱っていく予定である。環境に関しては、従来の小学校での環境教育よりもインパクトの大きい、効率的な手段があるのでないかと模索しており、従来のプロジェクトと並行して、より年齢層の高い人たち(学生など)に対して、我々と同じように環境意識の喚起を行ってくれるような人々を生み出すというアプローチ法でのプロジェクトを検討している。

職業体験のほうは、協力してもらえる企業、お店がいくつかありそうなので、そこを拠点におこなっていきたい。HISをはじめとして夏が繁忙期であることが多いため、いくつかの企業を春に回し、夏に2,3か所で行い、その反省等をふまえた上で、協賛も視野に入れつつ春に本格的に取り組んでいく予定である。



# JPSI (Philippine)

## メンバー

3期 斎藤遥希、西浦早織

4期 牧内一真、瀬川堅心、佐藤ちひろ、井之上旦、金子祥悟

## 年間活動スケジュール

4月	提携先との関係について
5月	新入生（4期）加入、フィリピンに関する説明
6月	視察渡航の概要確定
7月	フェアトレードについて、視察渡航詳細詰め
8月	夏視察渡航
9月	春プロジェクト概要確定、チーム分け
10月	プロジェクトについてチーム毎にプレゼン
11月	渡航スケジュールについて、提携先とミーティングで情報共有
12月	プロジェクト準備
1月	プロジェクト準備（広報など開始）
2月	春渡航、プロジェクト開始
3月	新歓について

## 渡航詳細

8月渡航

### [ 渡航目的 ]

春のプロジェクトに向けた視察

### [ 渡航概要 ]

参加者 MIS メンバー 8 人

提携先 MISPH

## 渡航日程

日付	午前	午後
8月 27 日		マニラ到着
8月 28 日	プラカンへ	プロジェクト案作成
8月 29 日	GK ファームへ	プロジェクト案作成
8月 30 日	マニラへ移動	観光
8月 31 日	東京へ	

### [ 活動報告 ]

春に行うプロジェクトの方向性を提携先と話し合い決めました。また、農業に関してのプロジェクトを進めていくにあたって新たな提携先を探しに行った。

### [ 活動成果 ]

春に行う 3 つのプロジェクトを決め、春への弾みがついた。さらに新たな提携先として GK ファームを見つけ、協力していくことになった。

## 2月渡航

### [ 渡航目的 ]

農業プロジェクト実施（セミナー、フォトエッセイコンペ）、提携先の新規開拓

### [ 渡航概要 ]

参加者 MIS メンバー 9 人

提携先 MISPH

## 渡航日程

日付	午前	午後
2月 10 日		マニラ到着
2月 11 日	提携先とミーティング	観光
2月 12 日	セミナー	フォトエッセイコンペ、今後についての話し合い
2月 13 日	プラカンに移動	エコパーク視察、パーティー
2月 14 日	移動	リゾートで観光、夏プロジェクトについて考察、マニラ帰還
2月 16 日	移動	フィリピン大学で新メンツと交流、ショッピング
2月 17 日	小学校視察	フェアウェルパーティー

2月 18日 マニラ発

### [活動報告]

右は 12 日に行ったフォトエッセイコンペの写真。フィリピンで公募して集まったフォトエッセイをデラサール大学の学生に読んでもらい、どれがいいのかを審査してもらった。フォトエッセイを作ってくれた一般の方はもちろん、実際に農業に関する文と写真を読んでもらうことで、学生にも農業に関して考えてもらえるきっかけを作れたと思う。

### [活動成果]

プロジェクトを二つ無事に成功させ、皆成長することができた。また、提携先ともまた仲良くなれた。今後も農業プロジェクトを進めていくという方針で合致し、夏に向けての動き出しも開始することができた。

### 来年度のビジョン

農業プロジェクトを継続・拡大し、農業体験プログラムを軸としていく。また、現提携先の MISPH に協力してもらい、農業に詳しい現地の団体との提携を進めていく。



# JSSI (Singapore)

## メンバー

(夏まで参加していた人も含む)

3期 山口虹、藤田浩之介、小芦昇子、三宅遙

4期 久家百合、滝川未梨、塚田亜未、大場卓

## 年間活動スケジュール

4月	
5月	4期参加
6月	金沢へ視察渡航
7月	一般財団法人日本アジア振興財団様から協賛を頂く
8月	金沢プロジェクトを実施
9月	渡航報告会、動画の広報
10月	4期へ代替わり
11月	観光をテーマにしたプロジェクトを行うことを決定
12月	
1月	
2月	
3月	シンガポールへの視察渡航

## 渡航詳細

2015年8月渡航

### [渡航目的]

金沢の魅力を世界(外国人観光客)に発信する

### [渡航概要]

In Kanazawa プロジェクトは、2014年3月に指導した、NPO法人 MIS によるプロジェクト。当プロジェクトは、観光資源を外国人に体験してもらい、彼らの目線から海外に向けて実際に発信するプロジェクトである。より具体的には、訪日外国人のモデルであるシンガポール学生に金沢で面白い、体験する価値があると思ったものを撮影してもらい、ビデオを YouTubeなどのメディアに掲載・広報する、という内容。

参加者 MIS メンバー:15人

提携先 MIS シンガポール

## 渡航日程

日付	午前	午後
8月6日	金沢に朝到着	金沢の学生とアイスブレイク
8月7日	班に分かれて動画撮影開始	動画撮影・編集
8月8日	動画撮影・編集	動画撮影・編集
8月9日	白川郷を観光	動画コンテスト・Farewell party
8月10日	移動	東京着。シンガポール人と渡航反省

## [活動報告]

### プロジェクト

今回のプロジェクトではまず、「食」や「日本文化」などのテーマに沿った動画の作成を目標にした。何か新規性がなければ、動画を見てもらうことは難しいと考えたからだ。私たちが選んだテーマは、「食」「文化」「デート」「女子旅」「日本人のガイド」の5つ。

そして、テーマに沿った動画だけではなく、観光スポットについて詳しく取り扱った動画の作成も現在行っている。テーマを設けて作られた動画は、「金沢に行ったらこんなことができる」というイメージを持たせるのに役立ちますが、「どうしたら楽しめるのか、どこが一番魅力的な場所なのか」という部分は伝えられない。そのため、「ここに行けばこのスポットは満喫できる」という観光スポットに関する情報が得られる動画も必要なのである。観光スポット紹介動画は、以下の5つにエリアを絞って作成した。

1. 兼六園 2. ひがし茶屋街 3. 21世紀美術館 4. 近江町市場 5. 金沢城公園

また最終日に動画の上映会を開き、投票を行って特に優れた作品を決めた。動画は You Tube にアップされている他、JTB シンガポール支店にも動画が流されている。

## 議論

班ごとにわかった活動が多く、より良い動画を作るためにはどうすればいいのか班ごとに思考錯誤した。また動画を作った後の広報の仕方についても、上映会の前や帰京後に議論した。

この金沢のプロジェクトの最終日には、シンガポールメンバーと今後の活動についてどのように進めるのかも話し合った。大枠は文化、その中でも貧富の差や人種、観光な

ど様々なテーマが出ましたが、いざプロジェクトに移行するとなると双方の合意が難しいものが多く、次のプロジェクトについてはスカイプミーティングを行って決める方針となつた。

#### [渡航成果]

金沢を世界にPRするための動画をシンガポールの学生や金沢の学生を巻き込んで作ることができた。日本人だけで動画を作るのではなく、外国人の目線や地元に住んでいる人の目線をいれることによってより良いものになったと思う。

2016年3月渡航

#### [渡航目的]

シンガポールのまだ知られていない魅力を日本人観光客に伝えるため。新たなMISシンガポールのリクルートを行う。

#### [渡航概要]

ガイドブックに載っていないような現地のシンガポール人が薦める場所や食べ物に実際に触れて、日本人観光客に発信できそうな題材を探す。

参加者 MISメンバー:7人

提携先 MISシンガポール

渡航日程

日付	午前	午後
3月24日	移動日	
3月25日	カトン地区(joo chiat)	クラークキー
3月26日	Kaya toast試食、セントーサ島	チャイナタウン、マカンストラ
3月27日	Haji lane	シンガポール国立博物館
3月28日	JTBとミーティング	ミーティング、farewell party
3月29日	移動日	

#### [活動報告]

##### プロジェクト(視察渡航)

プロジェクトではなく視察渡航だったので、視察渡航の内容について報告する。

私達は上記の主旨の元、現地に住むシンガポール人が選んでくれた場所や食を体験し



1

# JSSI (Singapore)

日本人観光客が新たにシンガポールに行くに至るような題材を探した。その中で印象的だったのは第一に、Haji Lane というアラブ街の一角にあるストリートである。おしゃれなセレクトショップがあり、日本人の女子旅プランなどに盛り込めそうだった。次に、クラークキーというバーやクラブが立ち並ぶ街。みなとみらいとセンター街を足し合わせたような雰囲気で、Happy hour ではシンガポールにしては安くお酒を飲むことができた。また、食べ物ではシンガポール人の朝ごはんである Kaya toast が印象的だった。カヤジャムとトーストがあれば日本でも簡単に食べられるので、日本でシンガポールを知つてもらう良い機会になると考へる。

また、最終日には JTB とミーティングを行った。JTB シンガポールは現在ターゲットを高校生や大学生、20 代などの若い層にも広げており、私達 JSSI とのコラボレーションにも積極的な印象だった。ですが、大切なのは JTB のニーズと私達の目的が合致することではじめてコラボレーションはできるということで、あくまで今回はファーストコンタクトというスタンスだった。

## 議論

今回集めた題材でどのように広報を進めるか議論が少なかったことが反省である。題材を見つけることに重きをおきすぎたため、今後の発信方法については議論不十分だ。

また今後の JSSI のプロジェクトをどのようにするかを議論した。今のところ、今年夏にシンガポールでプロジェクトを行うのは難しいと考えている。5 期が入ってきてくれた場合、再び議論する予定だが、シンガポールというより日本での広報を考えた方が効果的なのではという見解だ。また社会貢献的な要素が少ないので、違うプロジェクトの案も再び検討する可能性がある。シンガポールメンバーからシンガポールに私達がもう一度行く意義は少ないのではないかという意見が出た。

(右写真はミーティングを行ったカフェ)

## [渡航成果]

シンガポールに実際に行き、発信する題材に実際に触れたことで、日本でインターネットなどから得ていた感触と実際受け取った感触の差を実感した。期待していなかった場所が意外とすばらしかったり、その逆もまた然りということがあった。

また、シンガポールの学生と新たにコンタクトをとることができた。MIS シンガポールは就職する学生などで高齢化が進んでおり、リクルートの良い機会になったと思う。

## 来年度のビジョン

来年度は 5 期中心のプロジェクトをしようと思っている。来年度実施は無理でも、四期は引継ぎに専念し、5 期のしっかりした基盤作りの期間でありたい。

また日本でできる発信活動にも精を入れたい。



# JBSI (Burma)

## メンバー

3期 釣持智洋、小林鏡祐、西浦早織、渡辺晃一朗

4期 大鹿史顕、一ノ瀬理紗、長谷川明紀、宮田修輔、山本梨那、渡辺智裕

## 年間活動スケジュール

4月	
5月	
6月	夏渡航準備
7月	
8月	ミャンマー夏渡航
9月	夏渡航反省
10月	
11月	↑
12月	提携先探し
1月	↓
2月	ミャンマー春渡航
3月	

## 渡航詳細

ミャンマー夏渡航（2015）

### 【渡航目的】

- エリンクラスとのワークショップ・フィールドワーク

第1段階として、問題発見の手法（ブレインストーミング・KJ法）をエリンクラスメンバーとともに確認する。第2段階として、フィールドワークを通じヤンゴンの街の現状を見て、第1段階で確認した手法を使って議論し、ミャンマーでのプロジェクトについて語る。

- 小学校ミニプロジェクト

ミャンマーで問題になっている one way teaching に対するプロジェクトを行うとともに、MIS メンバー・エリンクラスメンバーがプロジェクト経験を積む。

### 【渡航概要】

参加者 :MIS メンバー :9 人

提携先：マノーラマ僧院日本語教室エリンクラス

## 渡航日程

日付	午前	午後
8月 20日		成田発・バンコク着
21日	バンコク発・ヤンゴン着	観光
22日	僧院にてワークショップ	ワークショップ
23日	エリンクラスメンバーと市内を フィールドワーク	FW の結果をもとに議論
24日	小学校下見	観光
25日	プロジェクト準備	小学校プロジェクト
26日	観光	ヤンゴン発
27日	成田着	

### 【活動報告】

- エリンクラスとのワークショップ、フィールドワーク

全ての場面で4つに班分けして活動した。第1段階の部分では、「外国人との付き合い方」等のテーマのもと実際に議論を行い、実践的に各手法を使用した。第2段階では、「皆が幸せになれる国・街にするには」というテーマのもと、各々の班で定めたルートでフィールドワークを行い、見学して各個人が発見したことを議論の中まとめた。

- 小学校ミニプロジェクト

エリンクラスメンバーの参加のもと各授業を準備した。One way teaching に対する解決案として、小学生が自発的に考えてもらう場を作ることが大事と考えたため、今回は「理想の小学校」をそれぞれに考えてもらった。3クラスに分かれて授業をし、日本紹介などを挟みつつ、「こんな小学校ならもっといいな」ということを尋ね、発表してもらった。

### 【渡航成果】

フィールドワークを通じヤンゴンの街を自分の目で確かめることができた。また問題発見の手法を確認することで、円滑にプロジェクトを作る道筋が作れた。小学校PJでは、実際にプロジェクトを作り行うことで、お互いに MIS の活動を身をもって体感できた。またエリンクラスメンバーとの親睦を深めることに成功し、良好な関係を築くことができた。

# JBSI (Burma)

渡航詳細 ミャンマー春渡航（2016）

[渡航目的]

- ・プロジェクト実績のない JBSI に最適な提携先模索

プロジェクトを行う能力のある提携先を探すべく、今回は 3 つのアプローチをかけた。

第一に、ビルマの 8888 民主化運動当時からその活動の中心を担った 88 世代学生団体と面会した。第二に、災害募金などの慈善活動を展開する組織と面会した。尚この組織はマンチェスター・ユナイテッドのサポーター団体でもある。第三に、ビルマで MJET が行った植林活動の成果を視察し、該当地区を散策した。

- ・これまで提携関係にあるエリンクラスとの交流

組織的、語学的都合上、エリンクラスとの現段階でのプロジェクト実施は不可能と考え、今期は交流活動を実施するにとどめた。

[渡航概要]

参加者:MIS メンバー 8 名（うち JBSI メンバー 3 名）

提携先:マノーラマ僧院日本語教室エリンクラス

渡航日程

日時	午前	午後
2月 11 日	成田発	KL 着
2月 12 日	ヤンゴン着	市内観光
2月 13 日	学生団体 88Generation と面会	88Generation の活動内容視察、エリンクラス訪問
2月 14 日	観光、マン U サポーター団体と面会	MJET 担当者と面会 ヤンゴン発
2月 15 日	バガン着、観光	観光
2月 16 日	MJET 活動実績視察	左同 バガン発
2月 17 日	ヤンゴン着	ヤンゴン発
2月 18 日	成田着	

[活動報告]

- ・88Generation は歴史ある団体であり、過去から継続されるその活動内容を聞いた。午後にはその活動の一端を見学した。
- ・エリンクラスとの交流では、実際に教室を訪れ現地日本語学校学生の日本語習得をサポートした。

- ・マン U サポーター団体は慈善活動をある程度行っており、JBSI も同行できること。
- ・MJET は植林などを行っているが、グリーンツーリズム的側面が強く、商業的な活動に感じられた。

[渡航成果]

マン U サポーター団体は災害支援な活動をしており、今後 9 月にマンダレー地区においてその活動を行う予定であるので、そこに同行することを提案した。その他団体とは活動の性質上、JBSI の求めている団体像とは完全には合致しなかった。エリンクラスとは引き続き良好な関係を築いており、今後も彼らの日本語学習の動機づけを支える活動を続けていくべきだと思われる。



## 来年度のビジョン

春渡航で提携先となることを承諾してくれたマン U サポーター団体との連絡を密に取り、提携を確固たるものにする。

9月にはその団体がマンダレー地区において寄付活動を行う予定であるので、それに同行するとともに我々が加わるからこそできる活動も取り入れていき、ミニプロジェクトを行う予定。2017 春渡航でのプロジェクト実施を目指す。



# JISI(Indonesia)

## メンバー

(夏まで参加していた人も含む)

2期 朝原真知子、田澤拓海

3期 五百藏元太、土屋りさ

4期 古座匠、田端頌子、榎遙佳、岩瀬健一、市田朝美、五十嵐星来

## 年間活動スケジュール

4月	三月観察報告総括
5月	新歓準備
6月	4期を活動に迎える
7月	夏渡航プロジェクト準備
8月	渡航
9月	渡航総括
10月	4期に体制移行
11月	課題解決
12月	観察渡航メンバー確定
1月	観察渡航渡航者ミーティング
2月	同上
3月	観察渡航

## 渡航詳細

8月渡航

〔渡航目的〕

プロジェクトの実行

〔渡航概要〕

参加者 MIS メンバー :14 人

提携先 シアカラ大学院ヒベウナメンバーおよびボランティアの参加者

渡航日程

日付	午前	午後
8月 18 日	クアラルンプールからバンダアチェに移動	提携先と合流シアカラ大学国際課訪問。提携先とのディスカッション。

19日	TDMRC (Tsunami and Disaster Mitigation Research Center) を訪問。 ラジオ出演およびプロジェクトを宣伝。	アチェ観光および津波ミュージアム訪問
20日	小学校での防災訓練	スカウトキャンプ準備
21日	インドネシア議会議員、バンダアチェ州政府関係者、大学院防災研究科長らと防災についてのパネルディスカッション	Disaster scout camp 実施。海岸付近の野原にテントを設営し現地の高校生すかととキャンプを行った。MIS は防災バッグの紹介と身近なものができる応急手法のレクチャー & 実演、インドネシア版おかしも作り。夜にはファイヤーセレモニーを行い日本文化の一つとしてソーラン節を披露した。
22日	キャンプ終了	市内観光
23日 24日	美しいビーチで知られるウェー島サンバニに移動し観光	
25日	反省ミーティング MIS とインドネシア人の参加者でプロジェクトについて反省会。今後の展望についても意見を交わす。	クアラルンプールへ移動

## 活動報告

### 【Disaster scout camp】

アチェの高校生が所属するスカウトを対象としてインドネシアの他団体と共同で野外キャンプを実施して防災に関するプロジェクトを行った。海岸付近の野原にテントを設営し現地の高校生すかととキャンプを行った。MIS は防災バッグの紹介と身近なものができる応急手法のレクチャー & 実演、インドネシア版おかしも作り。夜にはファイヤーセレモニーを行い日本文化の一つとしてソーラン節を披露した。

### 【ナイトミーティング】

連日次の日のプロジェクトのつめを行った。渡航終盤には次回以降の渡航のヴィジョ

ンについても考えた。

#### 〔渡航成果〕

キャンプ参加者の防災意識向上を目指す。スカウトメンバーを対象とするプロジェクトを通じて日本人が持つ防災意識をレクチャーした。

毎夜のミーティングを通じてインドネシア人の提携先の信頼関係が構築できた。次回以降もインドネシアにくるにあたり安心できる提携先となっている。

#### 来年度のビジョン

5期のメンバーが入ってくるので全く新しいプロジェクトを作っていく予定である。と同時に昨夏のスカウトキャンプは規模を大幅にかくだいして継続していく予定である。



## JDSI (Dhaka, India)

### メンバー

(夏まで参加していた人も含む)

3期 斎藤遥希、中村美依奈、伊藤大基、松田愛理佳

4期 林夏実、渡辺智裕、大場卓、山越遼一、山田梨紗

### 年間活動スケジュール

4月	
5月	所属部門決定
6月	次回のプロジェクトに向けて議論
7月	次回のプロジェクトに向けて議論
8月	
9月	次回のプロジェクトに向けて議論
10月	次回のプロジェクトに向けて議論
11月	次回のプロジェクトに向けて議論
12月	インドへの活動地域拡大案が出る
1月	次回のプロジェクトに向けて議論
2月	活動地域拡大を正式に表明
3月	次回のプロジェクトに向けて議論

### 来年度のビジョン

バングラデシュへの渡航が当分できないので、インドへ活動地域を拡大する。

現在、インド・ビハール州で孤児院を運営する日本のNPOと連絡をとり、その卒業生である大学生と夏に会い、社会問題について議論する予定だ。

並行して、6月には箱根の小学校とダッカの小学校をスカイプでつなぎ、掃除を中心とした文化交流プロジェクトを実施する。

## JMSI (Malaysia)

### メンバー

3期 宮本知典、渡邊晃一朗、神保翔太郎

4期 東寛貴、佐藤友理、江原未悠、佐々木彬弘

### 年間活動スケジュール

4月	春渡航の反省
5月	MIS マレーシアチームの活動紹介 & 新入生歓迎
6月	プロジェクトについて提携先と議論
7月	何を行うかの話し合い
8月	障害者スポーツ大会の準備
9月	夏渡航
10月	夏渡航振り返り
11月	一年生への交代交代
12月	春渡航への準備
1月	春渡航への準備
2月	春渡航への準備
3月	春渡航

### 渡航詳細

9月渡航

[渡航目的]

提携先との話し合いを進める（バザー、及び盲人に対するイベントの企画）

[渡航概要]

参加者 MIS メンバー : 7人

提携先 SSV (サンウェイ大学の学生団体)、Japanese Club (サンウェイ大学のサークル)

### 渡航日程

日付	午前	午後
9月 1日		成田空港発
9月 2日	クアラルンプール着	
9月 3日	盲人協会	国立モスクへ
9月 4日		SSVとミーティング
9月 5日	マレーシア観光	

9月6日 | クアラルンポール 発 | 成田空港 着

[活動報告]

- ・どうしたらマレーシアの人たちに障害を持った方々を身近に感じてもらえるかを議論した。
- ・どんなものならバザーで売れるかの議論した。

[渡航成果]

2016年度の夏に障害者スポーツ大会をマレーシアで開催することを決定し、同時に、異文化理解を目的としたバザーをマレーシアで開催することも決まった。

来年度のビジョン

マレーシアでの障害者スポーツ大会をさらに大きな規模で開催して、より多くの人に障害者を持った方々と関わる機会を提供したいと考えている。



# 事業報告(2) プロジェクト部門事業報告

## 断捨離プロジェクト

### メンバー

2期 田澤拓海

3期 中村美依奈、林知里

4期 大鹿史顕、榎遥佳

### 年間活動スケジュール

4月	
5月	チーム確定
6月	東京→苫小牧間の輸送会社探し
7月	東京→苫小牧間の輸送会社探し
8月	物品集め→仕分け
9月	JCSI 渡航に合わせて物品輸送
10月	東京→苫小牧間の輸送会社探し
11月	東京→苫小牧間の輸送会社探し
12月	東京→苫小牧間の輸送会社探し(確定)
1月	物品集め
2月	物品集め→仕分け
3月	物品輸送

### 渡航詳細

渡航は行わず、東京からカンボジアまでの物品輸送を手配した。

### 活動報告

従来より北海道苫小牧からカンボジアまでの輸送を、株式会社崩運輸さまにご協力していただいていたが、今年度は東京から苫小牧までの輸送を担当してくださる企業を探すことが課題となっていた。輸送会社さまに何社か掛け合った結果、株式会社北旺運輸さまにご協力いただけることになり、東京からカンボジアまで、金銭的負担をかけずに物品を輸送するルートが完成した。

今年度は、夏・冬の2回に分けて物品の回収を行った。夏はMISメンバーからの募集が中心となったが、冬には目黒区立第一中学校さま・本郷第六中学校さまにご協力いただき、生徒さん方からたくさんの物品を提供していただいた。冬にはこれを仕分けて北旺運輸さまの事業所までお送りし、カンボジアまで物品が届けられるよう手配した。

### 渡航成果

以下の物品をカンボジアの孤児院およびリサイクルショップに送付した。リサイクルショップにおける収益は、断捨離プロジェクトの広報費・北旺運輸さま事業所までの輸送費に当てられる。

鉛筆 568本

ボールペン 170本

シャープペンシル 136本

サインペン 194本

多機能ペン 36本

消しゴム 110個

ノート 94冊

ハサミ 5本

定規 43本

ペンケース 18個

クリアファイル 71枚

クレヨン 5セット

折り紙 78枚

ぬいぐるみ 51個

ハンドバッグ 14個

古着 多数(約30kg分)

その他雑品(クリップ、のり、食器など) 149個

### 来年度のビジョン

本年度の活動により、東京からプノンペンまでのチャネルが開通した。次年度は、さらに事業を円滑にするため、①集めたモノを保管するための倉庫を都内の比較的交通の便が良い場所で見つけること、②モノの収集先をより多くの小中学校に拡大すること、③一般公募の形での収集を本格化させること、④輸送周期の安定について取り組む予定である。

# Experience Japan

## メンバー

2期 内藤美織、小見門宏 3期 松嶋達也、五百歳元太、釣持智洋、堤佳奈  
4期 山越遼一、佐藤友理、下田悠太

## 年間活動スケジュール

4月	プロジェクト準備
5月	外国人公募開始
6月	日本人公募開始
7月	訪問地視察 公募締切
8月	プロジェクト実施
9月	反省会
10月	引き継ぎ、プロジェクトメンバー交代
11月	テーマ設定
12月	テーマ設定
1月	南会津町訪問合宿
2月	プロジェクト準備
3月	2016 プロジェクト本格準備開始

## 渡航詳細

### 8月渡航（プログラム実施）

#### [渡航目的]

プログラム参加者に、社会に資する人財になるための視点とモチベーションを持って帰ってもらう

#### 日本における外国人との文化交流

日本に経済的要因から来れない外国人を航空券代などを援助することで日本を体験してもらう

#### [渡航概要]

参加者 MIS メンバー 8名

提携先 EWM ファクトリー、南会津町役所など

#### 渡航日程

8月 4 日	外国人到着。歓迎パーティー
8月 5 日	シニア活動センター、落合水再生センター訪問
8月 6 日	浅草観光、足立清掃工場訪問

8月 7 日	日本財団、リディラバ訪問
8月 8 日	東京から福島県南会津町への移動 BBQ
8月 9 日	伊南の郷、南郷トマト選果場訪問
8月 10 日	グループに分かれ、南会津のフィールドワーク
8月 11 日	町民への現地調査、提案発表
8月 12 日	東京に帰り、最終ミーティング
8月 13 日	プログラム終了 解散

#### [活動報告]

東京と福島県南会津町を訪問した。「社会貢献とは何か？」をテーマに、東京ではインフラ系公共事業から社会貢献を目指す企業を訪問し、その指標を得てもらった。その後福島県南会津町を訪問し、現地でのフィールドワークを通じて社会貢献とは何か？について個々の考え方を獲得してもらった。

#### [渡航成果]

- ・参加者全員による「社会貢献とは何か？」についてのファイナルレポートの作成
- ・プログラム終了後の相互交流
- ・プログラム報告書の作成



# 運営報告 (1) 執行部門運営報告

## 経理

### メンバー

縫部瑞貴、新井理玖

### 年間業務

9月	年会費徴収
1月	支出基準策定
3月	各春渡航へ支出金決定、実行
4月	新歓費徴収方法、徴収額決定

## 人事

### メンバー

大塚理央、小原直人、嶋林裕太

### 年間業務

5月	新入生のチーム決めミーティング
随時	休会や復帰についての管理

## 財務

### メンバー

小見門宏、結城知佳、伊藤大基、堤佳奈

### 年間業務

随時	各種フォームの管理（企業・財団）	渉外用ファイルの更新	随時
随時	各チーム間の渉外調整		
5月	渉外係の養成		
9月	財団の振り分け		

## 総務

### メンバー

朝原真知子、木槻拓人

### 年間業務

4月	年次報告書作成
5月	総会の開催
11月	OB会の開催

# 運営報告 (2) 定例会業務運営報告

## 定例会開催

月3回程度開かれる定例会では、各チーム同士の情報共有及び、全社的事項の話し合いを行っている。

4/11	#1
4/18	#2
5/10	#3
5/23	#4
5/31	#5
6/13	#6
6/20	#7
6/28	#8、通常総会
7/12	#9
7/25	#10
8/2	外部勉強会
9/19	前期反省会
9/27	#11
10/10	#12
10/25	#13
10/31	#14
11/15	#15
11/21	OB会
11/29	合同報告会
12/12	#16
12/27	#17
1/9	#18
1/16	#19
1/30	#20
2/7	#21
2/27	#22
3/6	#23
3/19	#24
4月	後期反省会予定

## 課題解決プロジェクト

### 目的

- ・渡航を通して見つけた、組織全体に対する問題点を発見・解決することで、組織運営状況を改善すること。
- ・プロジェクトマネジメントを実際に用い、プロジェクト経験を積むこと。
- ・普段別のチームで活動しているメンバー同士の交流によって親交を深めること。

### やったこと

課題解決プロジェクトは、課題分析フェーズと課題実行フェーズに分かれる。

#### 課題分析フェーズ

まず、9月に行われた全体での渡航反省会、定例会においてMISが抱える問題点を洗い出した。そしてその際洗い出した問題点ごとにチームを作成し、それぞれの班で1ヶ月ほど議論をし、問題の分析と解決策の作成を行った。10月の後半に全チームによる発表会を行い、その内容をメンバー全員で相互評価して点数化し、5点満点中平均3.5点を超えた提案を通過とした。この発表会当日に通過できなかったチームについては再度その問題分析と提案を練り直し、定例会等で時間をとって発表の機会を設けた。

#### 課題実行フェーズ

まず、2016年1月頃に各班が、プレゼンの結果通過した提案について、プロジェクトマネジメントの手法を用いて、ステークホルダー分析、成果物の明確化、事業終了までのスケジューリングなどを行った。その資料に基づき、各班が実行へと着手した。課題解決プロジェクト全体マネージャーとして、代表が適宜進捗を確認し、うまくプロジェクトが進められるよう監査している。

### 来年度にむけて

次年度も同様に夏の渡航終了後に課題を洗い出し、課題解決プロジェクトを行っていく。人数が今年度よりも増えることが予想されるので、全体のマネジメントに関しては若干の修正が必要になるかもしれない。

# 内部専門性

## 目標

内部専門性の目標は理念にある「学生の成長」とプロジェクトそのものを繋げることである。個別具体的には、コーチングはプロジェクト後の反省をこれからの行動にまで落とし込むこと、プロジェクトマネジメントはプロジェクトの質を高めることで得られる反省がより良質なものとなるようにすることを目標としている。

## やったこと

- ・人材の育成：内部専門性はある程度、専門性を必要とするものであり、人材を育成することが不可欠であるため、今年度は4期の佐藤、山越の両名をそれぞれコーチング、プロジェクトマネジメントにおいて十分に専門性があると言える段階まで育成した。
- ・渡航でのコーチング実施：渡航後、提携先とのコーチングを実施した。またレポートと対面にてMISメンバー間でもコーチングを実施した。
- ・勉強会の開催：合宿や定例会、または有志の集まりにて、勉強会を開催した。

## 来年度への課題

来年度は駒場ファシリテーションに組み込まれ、全体管轄の一翼を担うだけに各プロジェクトに収まらないMISの諸課題に対処する組織になること、内部専門性をプロジェクトの運営にうまく織り交ぜていくことの2点が課題として挙げられる。

1つ目に関しては、駒場ファシリとしての立ち位置上の課題である。MISでは内部の課題を解決する力が非常に弱い。定例会における課題を始めとし、問題は山積しているにも関わらず、各プロジェクトチームはそれを放置する傾向にある。しかし、MISの基盤が強固であれば各プロジェクトに対する支援もより確固たるものとなり、プロジェクトの質も高まるであろう。駒場ファシリにはコーチングで培われる問題解決能力、マネジメントによって養われる運営力を發揮し、MISの国内における日常的な課題への対処を期待する。

2つ目は国内と各プロジェクトの断絶による課題である。MISの主になる活動はプロジェクトであるが、目的としてのメインは成長という日常性の高いものである。その折り合いを上手くつけ、理念達成に近づけるか否かが課題であろう。

2016年度は創設から数えて五年目ということで、MISが取り組む活動の幅や会員数は着々と大きくなっています。そこで来年度MISでは、これまで同様に新たなネットワークの構築と強化を模索していくとともに、組織運営面、事業面の両面での統合を目指していきます。すなわち、各チームが自律的に行う事業の量的拡大と質的向上を前提に各チーム間の協調を進めることで、よりMISという団体が生み出す価値を高めたいと考えています。

個々の既存事業についても、来年度には様々な活動が予定されています。フィリピンの農業事業やインドネシアの防災事業、Experience JAPAN Projectは本年度の反省を踏まえて修正やアレンジを加えつつ、より効果的で大規模な事業実施を行うことを目標としています。ベトナムについては環境事業について既存事業の拡大と見ればこちらの類になりますが、新たな試みとして高校生を対象とした職業体験事業を開始する予定で、これは一つの大きなチャレンジになります。導入的プロジェクトからまずは実施し、その後に規模の拡大化を図る見込みです。加えてMISの創設以来一貫して教育事業を行ってきたカンボジアでも変化が生じます。カンボジアでは比較的、提携先の自律的活動が実現されてきているため、今後は断捨離プロジェクトを統合して新たな内容の事業を作っていくことになりました。また、新規事業についてはマレーシアにて障害者支援をテーマとしてプロジェクト実施を目指しています。マレーシアチームの発足からまだ一年ほどではありますが、現地障害者支援団体と連携して準備を進めています。

上記のとおり2016年度も各国でプロジェクトの実施を行い、提携先学生との交流を通じてその関係の強化を図っていきますが、MISとしてより“Multilateral”な要素を追求した取り組みも行っています。これまであくまで日本人学生・現地学生という二者による事業運営を中心的に行ってきましたが、多国間学生の協働によるプロジェクト運営の可能性を模索していきます。そのためにも団体内部での情報的、活動的統合や複数国への渡航などを積極的に進めていく必要があると考えています。MISは設立から4年以上が経ち、現在は「新しい組織」から脱皮して「安定的な組織」へと移行する過渡期にあります。そのためにも、創設時の理念に沿う形で組織の整備を完遂させ、さらなるMISの発展の基礎を固める非常に重要な時期であると意識して、2016年度の活動を進めていきたいと思っています。

五百藏 元太

1

2

3

4

## 5 協賛企業・財団紹介

2015年度活動において以下の企業・財団の方に協賛をいただきました。

企業・財団（敬称略）	協賛先
公益財団法人 三菱UFJ国際財団	JCSI
公益財団法人 双日国際交流財団	Experience Japan
国際交流基金アジアセンター	JVSI

6

7

8

私たち MIS は 2012 年 9 月の第 1 回カンボジアでのプロジェクトから始まり、今日に至るまで、東南アジア諸国におけるネットワークを拡大し、現地学生と一緒に、学生ならではの視点を取り入れ様々なプロジェクトを成功させてきました。

今後は、各国でのプロジェクトの継続に加え、多国間でのプロジェクトを活発にさせていきたいと考えています。

このように様々なプロジェクトを検討していますが、MIS はほぼ学生のみで活動しており、また 2012 年にできた歴史の浅いサークルでもありますので経験や資金に関しては苦労しているのが実情です。

しかし、プロジェクトが実行できずに現地の子供や学生、また国自体の可能性を潰してしまうことは避けたいと考えています。MIS の活動、考えに少しでも興味、共感を持ってくださいり、現地の人々のサポートを少しでも行っていきたいと考えていただける方はどのような些細なことでもかまわないので MIS に連絡を頂けると幸いです。

MIS のホームページや Facebook ページにイイネ! を押していただけるだけでも、活動の支えになりますのでご検討いただけすると幸いです。

MIS 一同、微力ではあるかもしれません、社会に、そして世界に貢献し今より少しでも良い未来が築ければと心より思っております。何卒よろしくお願ひします。

## 6 ご協力のお願い

1

2

3

4

5

6

7 連絡先

8

MIS 公式ホームページ :<http://misleaders.org>

MIS 公式 Facebook ページ :<https://www.facebook.com/MISsince2012?ref=bookmarks>

MIS 公式 Twitter アカウント :<https://twitter.com/mis2012leaders?lang=ja>

MIS 公式メールアドレス :[mis2012leaders@gmail.com](mailto:mis2012leaders@gmail.com)

団体沿革	34
提携先一覧	34
構成員	35
会計報告	35

## 8 基本資料

# 団体沿革

# 提携先一覧

2014年度までの主な活動は以下の通りです。

2011年	12月	発足、JCSI、ファシリテーション部門設立
2012年	9月	カンボジアにて、初のプロジェクト実施 新規ネットワーク部門設立
2013年	4月	2期加入、それに伴い新規ネットワーク部門にS,P,Vを設立
	7月	NPO法人格取得
	8月	カンボジアにて、第2回プロジェクト実施 ベトナムへ視察渡航 シンガポールへ視察渡航
	9月	JCSI、新規ネットワーク部門を統合、ネットワーク部門へ
2014年	3月	カンボジア、ミャンマー、ベトナムへ視察渡航を行う
	4月	3期加入、それに伴いネットワーク部門にJISI設立
	8月	カンボジアにて、シンガポール人を招き第3回プロジェクト実施(初のMP)
	9月	ベトナムにて、初のプロジェクト実施 渡航後にJDSI発足、JMSIは準備中

チーム	提携先（敬称略）
JCSI	タヤマ実践カレッジ
JVSI	フエ農林大学イングリッシュクラブ (EC)
JPSI	MISPH (MIS Philipine: 現地学生による有志団体)
JSSI	MIS Singapore (現地学生による有志団体)
JBSI	マノーラマ僧院日本語教室エリンクラス
JISI	シアカーラ大学学院ヒベウナメンバーおよびボランティアの参加者
JMSI	SSV (サンウェイ大学の学生団体)
JMSI	Japanese Club (サンウェイ大学のサークル)
断捨離プロジェクト	株式会社崩運輸 株式会社北旺運輸
Experience Japan	EWM ファクトリー、南会津町役所など

# 構成員

# 会計報告

2015 年度役員名簿

役職	名	所属
代表	内藤 美織	東京大学文学部
副代表	田澤 拓海	東京大学法学部
理事	齋藤遥希	東京大学経済学部
理事	時丸耕太	東京大学工学部
理事	松嶋達也	東京大学工学部
理事	宮本知典	東京大学法学部
理事	山口虹	東京大学経済学部
監事	五百藏元太	東京大学経済学部
監事	黒川洸洋	東京大学前期教養学部

2015 年度在籍者

計 約 80 名

2015年度 会計報告書  
2015年 4月 1日から 2016年 3月 31日まで  
特定非営利活動法人MIS  
(単位:円)

科目	金額
I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	327000
賛助会員受取会費	0
2 受取寄附金	
受取寄附金	7237082
施設等受入評価益	0
3 受取助成金等	
受取補助金	1304350
4 事業収益	
5 その他の収益	
受取利息	0
経常収益計	8891836
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	
給料手当	0
退職給付費用	0
福利厚生費	0
人件費計	0
(2)その他経費	
会議費	0
旅費交通費	7648913
施設等評価費用	49900
減価償却費	0
印刷製本費	54427
物品その他の費用	505109
その他経費計	8258349
事業費計	8258349
2 管理費	
(1)人件費	
役員報酬	0
給料手当	0
退職給付費用	0
福利厚生費	0
人件費計	0
(2)その他経費	
消耗品費	91583
水道光熱費	0
通信運搬費	0
借代家賃	0
旅費交通費	22550
印刷製本費	29000
減価償却費	0
施設利用費	0
その他経費計	143083
管理費計	143083
経常費用計	8401432
当期経常増減額	490496
III 経常外収益	
経常外収益計	0
IV 経常外費用	
経常外費用計	0
税引前当期正味財産増減額	490496
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	0
設立時正味財産額	100166
前期繰越正味財産額	37420
次期繰越支差額	527826

